

| | | | | | |
|------|-----------------------|-----|-------|-------------|---|
| 科目名 | 看護人材開発特論 | | | 選択必修 | 選択 |
| 担当教員 | 山田聡子、柳井 圭子、松浦正子、小山真理子 | | | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 単位数 | 2 単位 | オフィス アワー | 山田:17:00-18:00(水) 柳井:12:10-13:00(水) 松浦:17:00-18:00(水) |
| 開講時期 | 1・2年次 前期 | 時間数 | 30 時間 | | |

1. 看護人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について理解し、実践への応用について考察する
2. 看護の質を高めるための継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論について考察する
3. 看護・看護教育に関わる政策的課題を明確化し、政策立案を通じて質の高い看護を組織的に行うための方策について考察する

■ 授業の概要

看護専門職実践の特徴を踏まえた人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について学ぶ。さらに、看護の質を高め、継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論を探究し、課題を発見し、新しい知を構築する能力を修得する。

| 回 | 授業内容及び方法 | 担当 |
|----|--|----|
| 1 | 5月22日 人材開発の考え方、看護基礎教育の現状と課題 | 山田 |
| 2 | 社会の変化と人材育成としての看護基礎教育の動向 | 小山 |
| 3 | 看護人材開発にむけての能力育成に向けたカリキュラム | 小山 |
| 4 | 看護継続教育の現状と課題 | 山田 |
| 5 | 臨地における指導者育成の現状と課題(実習指導者・教員) | 山田 |
| 6 | 臨地における指導者育成に関する研究成果の検討 | 山田 |
| 7 | 臨地における指導者育成プログラムの検討 | 山田 |
| 8 | 病院組織における人材開発の現状と課題:ジェネラリストナース | 松浦 |
| 9 | 病院組織における人材開発の現状と課題:エキスパートナース, スペシャリストナース | 松浦 |
| 10 | 病院組織における人材開発プログラムの検討 | 松浦 |
| 11 | 日本の医療制度改革と看護の政策的課題の検討 | 柳井 |
| 12 | 医療・保健領域の政策決定過程の現状と課題 | 柳井 |
| 13 | 日本における看護教育制度の検討 | 柳井 |
| 14 | 他国における看護教育制度の検討 | 柳井 |
| 15 | 看護人材育成の政策的課題の検討 | 柳井 |

■ 準備学習

各教員から提示される文献リスト等を参考に、事前学習を行い、授業に参加する。大学院生がプレゼンテーションを行う際には、必読文献やプレゼンテーション資料を事前にメール等にて配布し、各自が主体的に参加できるように準備する。

■ 教材・テキスト

テキストは指定しない。最新の参考文献を授業開始時に紹介する。

■ 参考書

最新の文献を含め、適宜紹介する

■ 成績評価の方法及び採点基準

授業への参加度・プレゼンテーション(50%)、課題レポート(50%)から総合的に評価する。

- ① 討論への参加状況やプレゼンテーション内容から評価する
- ② 課題に対して探究した内容が適切にレポートとして論述されているか

■ 教員からのメッセージ

授業では、①諸理論と実践への応用、②研究の動向、③プログラム開発・システム開発・政策提言に向けた検討を行います。各自がクリエイティブに考え、現状と課題を踏まえ、新たな観点から看護人材開発のあり方について探究していくことを期待しています。

| | | | | | |
|---|-------------------------------|-----|-------|-------------|--|
| 科目名 | 実践看護学特論 | | | 選択必修 | 選択 |
| 担当教員 | 百田武司、鎌倉やよい | | | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 単位数 | 2 単位 | オフィス アワー | 百田:17:00-19:00(火) 鎌倉:12:00-13:00(月) |
| 開講時期 | 1. 2前期 | 時間数 | 30 時間 | | |
| ■ 授業の目的 1) ナーシング・ケア・サイエンスの構築に向けて、行動に介入する技法を理解し、脳卒中急性期の誤嚥性肺炎予防のための看護ケアの開発について探求する。 2) 脳卒中患者に対する、ベストプラクティスを提供するための方法論について探求する。さらに、患者・家族のアウトカムを向上させるための看護ケアの開発について探求する。 | | | | | |
| ■ 授業の概要 脳卒中など生活習慣病とともに療養生活を営む人間や健康に対する諸理論や既存の研究成果を概観し、成長発達段階と健康障害のレベルを融合した観点から、その人がより健康に生活していくための健康上の問題や研究課題を探求し発見する能力を修得する。 | | | | | |
| 回 | 授業内容及び方法 | | | | 担当 |
| 1 | ナーシング・ケア・サイエンスの構築に向けての展望 | | | | 鎌倉 |
| 2 | 行動の原理に基づく行動変容法:行動の観察と介入技法 | | | | 鎌倉 |
| 3 | ニューロサイエンスとニューロリハビリテーション | | | | 鎌倉 |
| 4 | 脳卒中急性期患者における摂食嚥下障害 | | | | 鎌倉 |
| 5 | 摂食嚥下障害のフィジカルアセスメントと病態推論 | | | | 鎌倉 |
| 6 | 脳卒中急性期患者への誤嚥性肺炎予防に関する文献検討① | | | | 鎌倉 |
| 7 | 脳卒中急性期患者への誤嚥性肺炎予防に関する文献検討② | | | | 鎌倉 |
| 8 | 脳卒中患者に対する研究における臨床的意義の検討① | | | | 百田 |
| 9 | 脳卒中患者に対する研究における臨床的意義の検討② | | | | 百田 |
| 10 | 脳卒中患者に対する研究における研究デザイン、対象設定の検討 | | | | 百田 |
| 11 | 脳卒中患者のアウトカム測定に関する検討 | | | | 百田 |
| 12 | 脳卒中患者に対する介入研究の展開方法① | | | | 百田 |
| 13 | 脳卒中患者に対する介入研究の展開方法② | | | | 百田 |
| 14 | 脳卒中患者に対する介入研究の成果の吟味と今後の発展の検討① | | | | 百田 |
| 15 | 脳卒中患者に対する介入研究の成果の吟味と今後の発展の検討② | | | | 百田 |
| ■ 準備学習 授業内容や方法について、適切な文献を活用し専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。 | | | | | |
| ■ 教材・テキスト 特になし | | | | | |
| ■ 参考書 各授業の中で適宜紹介する | | | | | |
| ■ 成績評価の方法及び採点基準 ①授業への参加度と貢献度(10%)②文献検討に基づきプレゼンテーションの内容(60%) ③レポートの作成(30%) | | | | | |
| ■ 教員からのメッセージ 文献検討を深めることで、学生自身の研究課題や研究の方法論を探究していきます。 | | | | | |

| | | | | | |
|---|--|-----|-------|-------------|---|
| 科目名 | 療養生活看護学特論A | | | 選択必修 | 選択 |
| 担当教員 | 河口 てる子、西片 久美子、石崎 智子 | | | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 単位数 | 2 単位 | オフィス アワー | 河口:土 16~18時 石崎:火 16~18時 西片:月 17~18時 |
| 開講時期 | 1・2年次 前期 | 時間数 | 30 時間 | | |
| ■ 授業の目的 1)健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育について探究する。 2)認知症をもちながら療養生活を営む人々とその家族への看護実践について探究する。 3)健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方について探究する。 | | | | | |
| ■ 授業の概要 健康課題をもち人々に対して、質の高い生活を支援するための療養生活看護に求められる専門的な知識、技術および教育方法などを探求する。この探究を通して、専門領域における看護学の構築に向けて教授する。 | | | | | |
| 回 | 授業内容及び方法 | | | | 担当 |
| 1~2 | 健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および患者教育に関する概念/理論の探究・分析 | | | | 河口 |
| 3~4 | 健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および患者教育に関する研究のクリティーク | | | | 河口 |
| 5 | 療養生活を営む人々とその家族への看護実践および患者教育に関する課題の明確化 | | | | 河口 |
| 6~7 | M. ニューマンの理論に基づく認知症患者の理解とケア | | | | 西片 |
| 8~9 | 認知症をもちながら療養生活を営む人々とその家族への看護実践に関する研究のクリティーク | | | | 西片 |
| 10 | 認知症をもち人々とその家族への看護実践に関する課題の明確化 | | | | 西片 |
| 11 | 健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する概念の探究・分析 | | | | 石崎 |
| 12~13 | 健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する研究のクリティーク | | | | 石崎 |
| 14~15 | 健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する課題の明確化 | | | | 石崎 |
| ■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。 | | | | | |
| ■ 教材・テキスト 適時、紹介する。 | | | | | |
| ■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。 | | | | | |
| ■ 成績評価の方法及び採点基準 授業参加状況(討議・発表等:50%、レポート50%)で総合的に評価する。 ①自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。 ②レポートが課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。 | | | | | |
| ■ 教員からのメッセージ 各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。 | | | | | |

| | | | | | |
|------|---------------------|-----|-------|-------------|--|
| 科目名 | 療養生活看護学特論B | | | 選択必修 | 選択 |
| 担当教員 | 山田典子、高田由美、高橋清美、姫野稔子 | | | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 単位数 | 2 単位 | オフィス アワー | 山田 月 16～18時 高田 火 17～19時 高橋 月 17～18時 姫野 月 16～18時 |
| 開講時期 | 1・2年次 前期 | 時間数 | 30 時間 | | |

■ 授業の目的

- 1) 健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育について探求する。
- 2) 健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する諸理論や研究成果を概観し、健康の捉え方を活用した看護実践について探求する。
- 3) 健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方について探求する。

■ 授業の概要

健康課題をもち人々に対して、質の高い生活を支援するための療養生活看護に求められる専門的な技術、援助および教育方法などを探求する。この探究を通して、専門領域における看護学の構築に向けて教授する。

| 回 | 授業内容及び方法 | 担当 |
|-------|---|----|
| 1～2 | 健康課題をもち療養生活を送る人々やその家族のメンタルヘルスの維持・促進の支援、患者教育に関する研究のクリティーク | 山田 |
| 3～4 | 健康課題をもち療養生活を営む人々の心の健康に関する捉え方および諸理論や研究成果を概観、健康課題の明確化 | 山田 |
| 5～6 | 健康課題をもち療養生活を送る人々とその家族への看護実践に関するクリティーク、概念及び理論の探究 | 高橋 |
| 7～8 | 健康課題をもち療養生活を送る人々とその家族への看護実践に関する課題の明確化、精神障がい者の退院支援のあり方に関する概念の探究/分析 | 高橋 |
| 9～10 | 健康課題をもち療養生活を送る高齢者とその家族の健康の捉え方および看護実践に関するクリティーク、概念及び理論の探究 | 姫野 |
| 11～12 | 健康課題をもち療養生活を送る高齢者とその家族への看護実践に関する課題の明確化、倫理的意思決定に関する概念の探究/分析 | 姫野 |
| 13～14 | 健康課題をもち療養生活を送る高齢者への患者教育、家族及び地域との連携に関する研究のクリティーク | 高田 |
| 15 | 健康課題をもち療養生活を送る高齢者やその家族のメンタルヘルスの維持・促進の支援に関する看護実践の探求 | 高田 |

■ 準備学習

次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。
その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。

■ 教材・テキスト

適時、紹介する。

■ 参考書

授業中に、適時、紹介する。

■ 成績評価の方法及び採点基準

授業参加状況(討議・発表等:50%、レポート50%)で総合的に評価する。

- ①自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。
- ②レポートが課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。

■ 教員からのメッセージ

各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。

| | | | | | |
|------|-------------------------------|-----|-------|-------------|---|
| 科目名 | 生涯発達看護学特論 | | | 選択必修 | 選択 |
| 担当教員 | 野口 眞弓、志賀くに子、永松 美雪、大西 文子、志賀加奈子 | | | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 単位数 | 2 単位 | オフィス アワー | 大西:(木)17時～18時 野口:(月)17時～18時 志賀くに子:(水)17時～18時 永松:(木)17時～18時 志賀加奈子:(水)17時～18時 |
| 開講時期 | 1・2年次 前期 | 時間数 | 30 時間 | | |

■ 授業の目的

1. 子育ての中核にある、出生直後からの母子を取り巻く母乳育児のアセスメントの実際と、母乳のケアを通じた乳児の健全な発育を支援する、地域の助産師・看護師の役割と実践について、理解できる。
2. 思春期を取り巻く環境を念頭に、思春期を中心とした健康教育のあり方および方法について理解できる。
3. 思春期から更年期におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題に関する理論・概念、援助方法を理解できる。
4. 小児期にある子どもの健康障害が成長発達に及ぼす影響と慢性疾患をもつ子どもと家族の支援に関する生涯発達理論・概念、援助方法を理解できる。
5. 国内外における予防接種制度(定期接種)の歴史的変遷を概観し、人の生涯にわたる健康を目指すために、予防接種を受ける子どもと家族の支援について討議する。

■ 授業の概要

生涯発達理論を基盤とし、人間の誕生から更年期までの対象において、それぞれの時期に必要な健康課題を明確にし、各段階に応じた生涯発達支援に向けた専門的な看護援助方法について、国内外の研究の知見を交えて教授する。また、小児期にある子どもの健康障害が成長発達に及ぼす影響と慢性疾患をもつ子どもと家族の支援に関する生涯発達理論・概念を教授する。

| 回 | 授業内容及び方法 | 担当 |
|----|---|-------|
| 1 | 出産体験に影響をする要因および出産体験が及ぼす影響について検討し、出産時の援助方法について討議する。 | 野口 |
| 2 | 母乳育児を可能にするための援助方法について検討する。 | 野口 |
| 3 | 妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援 日本版「ネウボラ」構想を実現するための課題や方略について探求する。 | 野口 |
| 4 | 思春期:中学生・高校生を対象とする健康教育の実際から課題を探究する | 志賀 |
| 5 | 性と生殖に関する健康教育について課題をもちより援助方法について討議する | 志賀 |
| 6 | 思春期を対象とする健康教育のありかた、また支援方法について討議する | 志賀 |
| 7 | 思春期・青年期におけるパートナーとのリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する課題を検討し、理論・概念を活用し援助方法について探究する。 | 永松 |
| 8 | 成熟期の妊娠に関する倫理的課題を検討し、女性と胎児のアドボカシーの視点を活用し援助方法について探究する。 | 永松 |
| 9 | 更年期における家族とのリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する課題を検討し、理論・概念を活用し援助方法について探究する。 | 永松 |
| 10 | 小児期にある子どもの健康障害が成長発達に及ぼす影響と生涯発達支援における課題を検討し、理論・概念を活用した援助方法について探究する。 | 大西 |
| 11 | 小児期のがんの子どもとその家族とその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、探求する。 | 大西 |
| 12 | 小児期にてんかんをもつ子どもとその家族とその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、探求する。 | 大西 |
| 13 | 小児期にネフローゼ症候群をもつ子どもとその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、探求する。 | 大西 |
| 14 | 国内外における予防接種制度の歴史的変遷を概観し、予防接種を受ける子どもと家族の支援について討議する。 | 志賀加奈子 |
| 15 | ワクチン個々の特徴を通して、予防接種を受ける子どもと家族の支援について討議する。 | 志賀加奈子 |

■ **準備学習**

事前学習課題を提示いたしますので、科目を選択される学生さんは、授業開始の2週間前までにはご連絡をお願いいたします。

■ **教材・テキスト**

適宜紹介する

■ **参考書**

適宜紹介する

■ **成績評価の方法及び採点基準**

各担当教員からの課題(50%)に加えて、プレゼンテーション評価(20%)やディスカッションへの参加状況(20%)、参加度(10%)を合わせて評価とする。
配点は、野口担当分20点、志賀くに子担当分20点、永松担当分20点、大西担当分27点、志賀加奈子担当分13点の合計100点である。

■ **教員からのメッセージ**

ライフサイクル全体を俯瞰し、看護の対象となる人の生涯発達上の課題を明確にしたうえで、その人なりの健康を維持・増進できるような方略をともに探求していきたいと考えています。主体的な学習を期待します。

| | | | | | |
|------|------------|-----|-------|-------------|--|
| 科目名 | 災害救護特論 | | | 選択必修 | 選択 |
| 担当教員 | 中信利恵子、渡邊智恵 | | | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 単位数 | 2 単位 | オフィス アワー | 中信: 10:00-12:00(水) 渡邊: 17:00-19:00(火) |
| 開講時期 | 1・2年次 前期 | 時間数 | 30 時間 | | |

■ 授業の目的

国内外の災害の動向と課題を探究し、災害医療や災害看護に関連する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、主要な理論・方法論を検討する。

■ 授業の概要

1) 災害看護領域における現象や看護実践の分析、活用されている諸理論や先行研究の研究成果を概観し、災害サイクルの各期の質の高い看護ケアを行うための看護の課題を探究する。また、災害が被災者や救援者に及ぼす影響、看護実践に活用できる理論や方法論について探究する。さらに、関心のある研究トピックに関する研究の動向や課題を探究し、研究方法論を検討する。

2) 災害時における要配慮者の健康問題とそれに対するケアについて探究し、看護の役割を検討する。さらに、災害発生後の支援や受援のあり方について探求し、災害における被災者支援と、被災者を取り巻く組織間連携に関する看護の課題について探究する。

| 回 | 授業内容及び方法 | 担当 |
|----|---|----|
| 1 | 災害や災害看護領域における現象や看護実践に関する文献検討 | 中信 |
| 2 | 災害看護において活用されている諸概念や理論に関する文献検討 | 中信 |
| 3 | 災害が被災者や救援者に及ぼす影響に関する文献検討 | 中信 |
| 4 | 災害や災害医療・災害看護における倫理的課題に関する文献検討 | 中信 |
| 5 | 被災者に対する看護実践に必要な看護の方法論の探究 | 中信 |
| 6 | 災害看護を行う看護者への支援方法の探究(1) | 中信 |
| 7 | 災害看護を行う看護者への支援方法の探究(2) | 中信 |
| 8 | 災害時における要配慮者の健康問題に関する文献検討 | 渡邊 |
| 9 | 災害時における要配慮者に対するケアおよび介入方法に関する文献検討 | 渡邊 |
| 10 | 災害時の外部支援や受援のあり方についての現状分析と支援方法の探求 | 渡邊 |
| 11 | 災害時における組織間連携に関する現状分析と支援方法の探求 | 渡邊 |
| 12 | 災害急性期における災害医療や看護に関する諸理論や方法論に関する文献レビューと現状分析(1) | 中信 |
| 13 | 災害急性期における災害医療や看護に関する諸理論や方法論に関する文献レビューと現状分析(2) | 中信 |
| 14 | 災害復興期における課題や解決に向けた支援方法の探究(1) | 中信 |
| 15 | 災害復興期における課題や解決に向けた支援方法の探究(2) | 中信 |

■ 準備学習

次回の授業内容や方法について、適切な文献を活用して事前に学習し、専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。

■ 教材・テキスト

適宜紹介する。

■ 参考書

授業の中で紹介する(中信)
授業の中で紹介する(渡邊)

■ 成績評価の方法及び採点基準

次の①～③で総合的に評価を行う。

- ①授業への参加姿勢と貢献度(10%): 自発的な質問、発言などをして積極的に授業に参加したか。
- ②文献検討に基づいたプレゼンテーションの内容(40%): 文献検討を行い根拠に基づいた資料を作成し、自己の意見を明確にしてプレゼンテーションが行っているか。
- ③レポートの作成(50%): レポートが課題に対して適切な内容でまとめられているか。

■ 教員からのメッセージ

文献検討とディスカッションを深めていく中で、博士論文の研究課題や研究方法論を探求していきます。(中信)

災害時の混沌とした状況の中で、どのようにして対応していくことが看護専門職として必要なか、これまでの災害を振り返りながら、探求していきます。(渡邊)

| | | | | | |
|---|---|-----|-------|-------------|---|
| 科目名 | 健康科学特論 | | | 選択必修 | 選択 |
| 担当教員 | 山本 憲志、山崎 弘資、森田 一三 | | | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 単位数 | 2 単位 | オフィス アワー | 山本:水12時-13時 山崎:月17時-18時 森田:月17時-18時 |
| 開講時期 | 1・2年次 前期 | 時間数 | 30 時間 | | |
| ■ 授業の目的 1. 集団を対象とした健康増進のアプローチを理解する 2. 集団を対象とした多様なアセスメント法と介入法を理解する 3. 多職種による介入とそのマネジメントを理解する | | | | | |
| ■ 授業の概要 地域や職域などの集団に介入して、そのウェルビーイングを高めることは、ヒューマンケアの目標のひとつである。このために、保健医療専門家は、集団を構成する多様な人たちの健康に関連する諸要因を、科学的・統計的に分析して、適切な介入方法を考案し、その実践をクリティカルに評価することが必要である。ここでは、国内外の知見を紹介し、全員で討議して理解を深める。 | | | | | |
| 回 | 授業内容及び方法 | | | | 担当 |
| 1 | 形態機能測定の意義とその方法 | | | | 山本 |
| 2 | 健康運動プログラムの作成①ーサルコペニア及びフレイルへの対応 | | | | 山本 |
| 3 | 健康運動プログラムの作成②ーロコモティブ・シンドロームへの対応 | | | | 山本 |
| 4 | 生活習慣病予防のための効果的な身体運動 | | | | 山本 |
| 5 | 転倒・介護予防のための科学的な身体運動 | | | | 山本 |
| 6 | 認知症予防のための効果的な身体運動 | | | | 山本 |
| 7 | 健康寿命延伸のための科学的な身体運動 | | | | 山本 |
| 8 | 生活習慣病の予防と対策(1)-循環器系疾患(高血圧、心疾患、脳卒中、糖尿病、脂質代謝異常、メタボリック症候群など) | | | | 山崎 |
| 9 | がんの予防と対策(1)-胃癌、大腸癌 | | | | 山崎 |
| 10 | がんの予防と対策(2)-肺癌、乳癌、子宮癌 | | | | 山崎 |
| 11 | 地域や職域などの集団における健康づくりのありかた(1) | | | | 森田 |
| 12 | 地域や職域などの集団における健康づくりのありかた(2) | | | | 森田 |
| 13 | 歯と口腔の健康づくり(1) 8020運動の始まりと取り組み | | | | 森田 |
| 14 | 歯と口腔の健康づくり(2) う蝕予防への取り組み | | | | 森田 |
| 15 | 歯と口腔の健康づくり(3) 歯周病対策への取り組み | | | | 森田 |
| ■ 準備学習 次回の授業範囲・課題などについて、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 | | | | | |
| ■ 教材・テキスト 特に指定しない。関係書籍・論文等を広く活用する。 | | | | | |
| ■ 参考書 ・山本憲志 <田口貞善監修「健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方」講談社サイエンティフィック> ・その他、適宜紹介します | | | | | |
| ■ 成績評価の方法及び採点基準 授業へ積極的参加・討論(30%)、プレゼンテーション(35%)・レポート(35%)により、総合的に評価する。 | | | | | |
| ■ 教員からのメッセージ 健康の保持・増進には身体運動が欠かせません。医療従事者として、その正しい知識を身に付け多くの人々の健康の保持・増進に貢献できるようにしましょう！(山本) | | | | | |